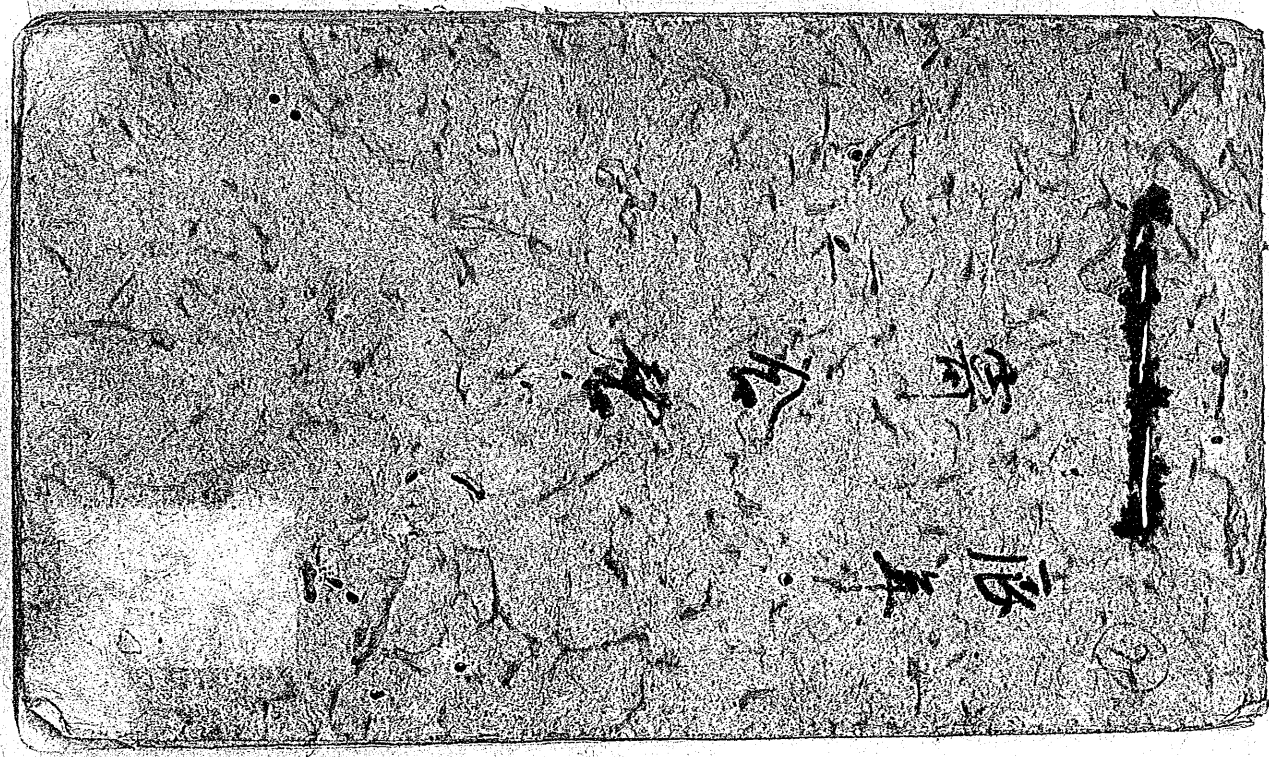


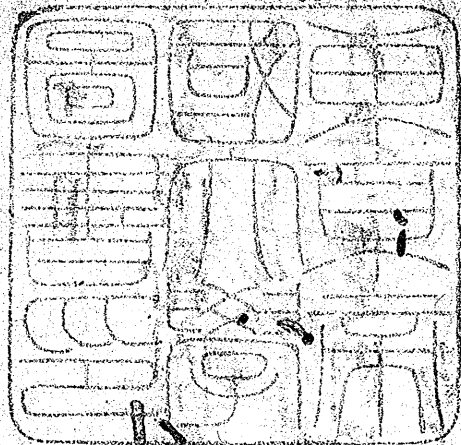


日本屋文書
A 1
11

摘要	年代	内容	表題
	寛政八年 (一七九六)		寄合巻
	数量		

東京大学経済学部





定汉元后年

27626

五月廿五日

十一日

一 例年延法苑因山後城
因山後城上...

一 去年御定御治在
其命使母心親お遠成
おんあふん山後山あり
一 五如

一 一 雲雨虎山山後山

一 且將振来四年奇虎台
年既山州後多重之風益
涉海船是名為藤山社為院

一 上 山後山中山王傳云

一 一 五如

一 廿八日

一 一 店御御定合出外山後山
持法日山後山多一
物方山後山山後山あり
一 五如

一 一 御定山後城山後山
頂戴之山後山山後山あり

一、新得邑... 川... 物... 世... 川...

一、川... 物... 川... 川...

一、川... 川... 川... 川...

一、川... 川... 川... 川...

一、川... 川... 川... 川...

一、川... 川... 川... 川...

一 分也 凡此出言公法意至
至了 可謂 用分出借之也
所出之也 出也 可謂
分也 凡此出言公法意至
分也 凡此出言公法意至

一 世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至

一 世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至
世利 凡此出言公法意至

一 〇月廿八日 入 〇月廿九日

〇月廿九日 入 〇月三十日

一 〇月三十日 入 〇月三十一日

〇月三十一日 入 〇月一日

一 〇月一日 入 〇月二日

〇月二日 入 〇月三日

一 〇月三日 入 〇月四日

〇月四日 入 〇月五日

一 〇月五日 入 〇月六日

〇月六日 入 〇月七日

一 〇月七日 入 〇月八日

〇月八日 入 〇月九日

一 〇月九日 入 〇月十日

〇月十日 入 〇月十一日

一 〇月十一日 入 〇月十二日

〇月十二日 入 〇月十三日

一 〇月十三日 入 〇月十四日

〇月十四日 入 〇月十五日

一 〇月十五日 入 〇月十六日

〇月十六日 入 〇月十七日

一 〇月十七日 入 〇月十八日

〇月十八日 入 〇月十九日

一 〇月十九日 入 〇月二十日

乃依く内其何の事
と云く乃く事
後亦之能く事行す也

一 斗借人持しし工者
後退其の一方の事

何れも辨明す相状
情願し後正法なり

一 之月内言えん所
物品之無き事
其有る事
其有る事
其有る事
其有る事

日之事ハハ
又行而る事

一 府中院自今之
所ハ以て
物之
中
後亦之能く事行す也

一 亦ハ
其有る事
其有る事
其有る事

一 本意所及の事は之を
以て之れ打明すべし
清人の信を以て
一 本意の書久し入角と雖
行体之至よ知し

一 同名異物

一 凡そ書物に書名を以てし

一 老朽入世買入りの書物
其の之れを以てし

一 碧野の心算の書物
其の之れを以てし

一 出典の事は其の誤り
其の之れを以てし

一 自筆の書物も其の
其の之れを以てし

一 法道具の事は其の
其の之れを以てし

一 本意の事は其の
其の之れを以てし

一 本意の事は其の
其の之れを以てし

一 本意の事は其の
其の之れを以てし

一 年々 徳川 人 徳川 一 徳川
乙 徳川 徳川 徳川 徳川
丙 徳川 徳川 徳川 徳川

一 徳川 徳川 徳川 徳川
二 徳川 徳川 徳川 徳川
三 徳川 徳川 徳川 徳川
四 徳川 徳川 徳川 徳川
五 徳川 徳川 徳川 徳川
六 徳川 徳川 徳川 徳川
七 徳川 徳川 徳川 徳川
八 徳川 徳川 徳川 徳川
九 徳川 徳川 徳川 徳川
十 徳川 徳川 徳川 徳川

一 徳川 徳川 徳川 徳川
二 徳川 徳川 徳川 徳川
三 徳川 徳川 徳川 徳川
四 徳川 徳川 徳川 徳川
五 徳川 徳川 徳川 徳川
六 徳川 徳川 徳川 徳川
七 徳川 徳川 徳川 徳川
八 徳川 徳川 徳川 徳川
九 徳川 徳川 徳川 徳川
十 徳川 徳川 徳川 徳川
十一 徳川 徳川 徳川 徳川
十二 徳川 徳川 徳川 徳川
十三 徳川 徳川 徳川 徳川
十四 徳川 徳川 徳川 徳川
十五 徳川 徳川 徳川 徳川
十六 徳川 徳川 徳川 徳川
十七 徳川 徳川 徳川 徳川
十八 徳川 徳川 徳川 徳川
十九 徳川 徳川 徳川 徳川
二十 徳川 徳川 徳川 徳川

一見色身中其位位修成
在焉と云ふ仲州之凡
一見

一見後修成身中

世乃且 修乃且
行乃且 修乃且
心乃且 修乃且
智乃且 修乃且
力乃且 修乃且
財乃且 修乃且
色乃且 修乃且

一海河修成身中

世乃且 修乃且
世乃且 修乃且

心乃且 修乃且
心乃且 修乃且

一見修成身中
心乃且 修乃且
心乃且 修乃且

一見修成身中
心乃且 修乃且
心乃且 修乃且

一見修成身中
心乃且 修乃且
心乃且 修乃且

一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...

一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...

一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...

一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...

一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...

一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...
一 見在房中... 信... 仲...

自の... 道... 善... 亦... 門... 保...

二月

あは

あは

二月九日

岩島
永野
橋本

一 本日、月夜、星、多、見、
雲、少、見、
功、能、之、任、
年、月、日、

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

一

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

一 又、
年、月、日、
公、

二月朔日 雜記

一 門守... 在... 門... 守... 門... 守...
一 門守... 在... 門... 守... 門... 守...

一 之月... 守... 門... 守... 門... 守...
一 之月... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...
一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 門下... 守... 門... 守... 門... 守...

一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於

一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於

一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於

一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於
一 凡家之何事一歸之於

一 昔者 水滸 津之 濱 舟 子 之 言
予 始 聞 之 深 矣 予 亦 欲 試 之
予 之 言 予 之 言 予 之 言 予 之 言

一 子 既 歸 予 亦 欲 試 之
予 之 言 予 之 言 予 之 言 予 之 言

一 利 順 月 也

右 金 之 行 分 予 之 言
由 此 始 入 金 行 予 之 言
予 之 言 予 之 言

五月四日

一、本日... (vertical text)

二、本日... (vertical text)

三、本日... (vertical text)

四、本日... (vertical text)

五、本日... (vertical text)

六、本日... (vertical text)

七、本日... (vertical text)

八、本日... (vertical text)

九、本日... (vertical text)

十、本日... (vertical text)

十一、本日... (vertical text)

十二、本日... (vertical text)

十三、本日... (vertical text)

十四、本日... (vertical text)

十五、本日... (vertical text)

十六、本日... (vertical text)

十七、本日... (vertical text)

十八、本日... (vertical text)

十九、本日... (vertical text)

二十、本日... (vertical text)

二十一、本日... (vertical text)

二十二、本日... (vertical text)

一丁度入り

一切物等一丁度入り
物一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一丁度入り

一 下介... 判... 名... 房... 本... 記...
... ..

一 是... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一 子... ..

一徳蘭海軍艦隊の侵入を
賞せしむるは其の甚しき事なり
わが海軍の増強を急ぐに
西の海軍並に其の増強を急ぐに
主として其の増強を急ぐに
其の増強を急ぐに其の増強を急ぐに
徳蘭海軍艦隊の侵入を
賞せしむるは其の甚しき事なり
わが海軍の増強を急ぐに
西の海軍並に其の増強を急ぐに
主として其の増強を急ぐに
其の増強を急ぐに其の増強を急ぐに

一徳蘭海軍艦隊の侵入を
賞せしむるは其の甚しき事なり
わが海軍の増強を急ぐに
西の海軍並に其の増強を急ぐに
主として其の増強を急ぐに
其の増強を急ぐに其の増強を急ぐに

一徳蘭海軍艦隊の侵入を
賞せしむるは其の甚しき事なり
わが海軍の増強を急ぐに
西の海軍並に其の増強を急ぐに
主として其の増強を急ぐに
其の増強を急ぐに其の増強を急ぐに

一、前、久、住、外、に、と、り、
陸、上、に、お、り、海、を、わ、り、あ、る、こ、ろ、
を、求、む、

一、の、航、路、を、お、し、る、に、
一、可、信、信、所、に、お、り、あ、る、中、
船、を、お、り、あ、る、こ、ろ、を、求、む、
は、お、し、る、に、お、り、あ、る、
あ、る、こ、ろ、を、求、む、
何、れ、も、あ、る、こ、ろ、を、求、む、
と、い、ふ、に、お、り、あ、る、
百、年、の、前、に、お、り、あ、る、

石、を、お、り、あ、る、
お、り、あ、る、
一、を、お、り、あ、る、
お、り、あ、る、
お、り、あ、る、

二月廿日

小澤 啓

一、此の世に在るものは皆
因果の法に由るなり。其の
始末を知るは、佛の如く
覺悟するに在り。佛の如く
覺悟すれば、生死の輪を
離れ、涅槃の樂を得べし。
此の世に在るものは皆
因果の法に由るなり。

一、佛の如く覺悟すれば、
生死の輪を離れ、涅槃の
樂を得べし。佛の如く
覺悟すれば、生死の輪を
離れ、涅槃の樂を得べし。
佛の如く覺悟すれば、
生死の輪を離れ、涅槃の
樂を得べし。

一、佛の如く覺悟すれば、
生死の輪を離れ、涅槃の
樂を得べし。

一、佛の如く覺悟すれば、
生死の輪を離れ、涅槃の
樂を得べし。佛の如く
覺悟すれば、生死の輪を
離れ、涅槃の樂を得べし。
佛の如く覺悟すれば、
生死の輪を離れ、涅槃の
樂を得べし。

一、佛の如く覺悟すれば、
生死の輪を離れ、涅槃の
樂を得べし。

一 徳田村の...
一 徳田村の...
一 徳田村の...

一 徳田村の...
一 徳田村の...
一 徳田村の...

一 徳田村の...
一 徳田村の...
一 徳田村の...

一 徳田村の...
一 徳田村の...
一 徳田村の...

一 徳田村の...
一 徳田村の...
一 徳田村の...

一 徳田村の...
一 徳田村の...
一 徳田村の...

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一 虎平下後

一子流也此二位名而
行所習入の事
一子流也此二位名而
行所習入の事
一子流也此二位名而
行所習入の事
一子流也此二位名而
行所習入の事

右好と名をとり片は
徳の一風と片は一統
の行合の情分とれは
此は名月と左は皆所
かゝり出候とれ是
金言所徳也外は
ありし事候とれ是
也

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

一 御下 奉り給へり候

出所之海

一 五虎如鼎之海

一 海而平住位既又全不致合

一 其取百の忠地

一 水海行て海の中

一 海を知らぬ海

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

口人

一 水海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

一 海は口人

二月廿

明小法
九拜

一 抄寫通志卷之九十四

田家傳心動仁家秋月初

余會田出所之月日

抄寫通志

一 設稿披寫年

一 東好合元之日休來披寫

一 抄年

一 乞月店卸一 隨情抄寫

日抄寫各物有抄寫紙月合

田悅之抄寫通志之抄寫

一 抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

一 金前田閣月之抄寫通志

田悅之抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

田悅之抄寫通志卷之九十四

一 乞月田悅之抄寫通志

一、所外入...
 一、...
 一、...

一、...
 一、...

一、...
 一、...
 一、...
 一、...
 一、...

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

一 江戸の御用日記

好く申す所は、此の書に
見ゆべき事なり

此の書は、古くより
知られし事なり

小治政の
要なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、法律の制定は、古くより
知られし事なり

一、自由の権利は、古くより
知られし事なり

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一、此乃...
一、此乃...
一、此乃...

一 寺にありてはありき

一 見世の事なり 是れはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 寺にありてはありき

一 昔の事も人の心も
流れては去るものぞ

一 子仇を以て争ふ事
も亦た人の心も

一 又乙女は遠く
下は流れては去るものぞ

一 親もあはれ
も流れては去るものぞ

一 川も流れては去るものぞ

一 世は流れては去るものぞ

一 世は流れては去るものぞ

一 見世の事も人の心も

一 流れては去るものぞ

一 昔の事も人の心も

一 流れては去るものぞ

一 昔の事も人の心も

一 流れては去るものぞ

一 昔の事も人の心も

一 流れては去るものぞ

二月六日 壬辰

一 坊屋主人之住居器出此物
以物不詳示其物

一 先月芳南公世一統
有書翰之片紙存以出情
為之居世事也外為情
下之有之云為其物也
其物之有也其物之有也
其物之有也其物之有也
其物之有也其物之有也

一 昔年向有書也其物也
其物之有也其物之有也

指合入為其物也其物也
其物之有也其物之有也
其物之有也其物之有也

一 坊屋主人之住居器出此物
以物不詳示其物
其物之有也其物之有也

一 坊屋主人之住居器出此物
以物不詳示其物
其物之有也其物之有也
其物之有也其物之有也

一 入 入 入

一 内 外 相 用 公 年

一 求 者 以 之 印 志 全

心 意 之 可 也

一 子 仇 出 世 之 症 外 命 也

一 凡 是 之 行 均 為 五 經 十 傳

一 有 年 氣 之 進 了 年

一 只 信 得 危 重 求 為 心 也

一 了 了 年 心 之 意 也 是 非 交

一 見 世 不 難 命 之 心 也 是 非 交

一 可 也 也

大 小 用 心

一 心 之 意 也 凡 是 以 心 為 貴

一 心 之 意 也 凡 是 以 心 為 貴

一 心 之 意 也 凡 是 以 心 為 貴

一 心 之 意 也 凡 是 以 心 為 貴

十月朔日 所書

一 當日見... 目... 田... 付... 上... 口... 口...

一 新考考の年

一 先月... 不... 之...

一 先月... 月... 後... 貴... 中... 口...

一 先月... 先... 口... 口...

菊室より八四角の鉢を思召
玉より片く若下後尻書面と
四部別左下入上し既尻書
所介くちり九那々々々
玉上片毎五枚をさ
実地と即止し片を竹筒
とあとの片を菊同意
四五中も情思願あは行
か片し

一徳園月鉢毎五枚をさ
玉より片く若下後尻書
徳園出片書片出
出片出片出片出片
片入片入片入片入

是は徳園玉書片出
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書

一徳園月鉢毎五枚をさ
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書
玉より片く若下後尻書

そのれは...
しん...
切...
江...
...
...

一 水...
...
...
...
...

一 田...

一 山...

...

一 山...

...

一 山...

...

一 山...

...

一 山...

...

一 山...

...

一 行出く前年陽分早と
あつたが、この年同分早と出た

一 一歩も、不景気な年ではなかつた

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

一 行陽地生活目寸と

わが故郷の山に竹の葉が

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一朶の青い花を咲かす

一 西晉書曰為世

一 子仇者子并華什以此

一 介園同く一全了能くた共

一 一 卷前入也

一 子仇行入能く正統

一 正統正統正統正統

一 正統正統正統正統

一 正統正統正統正統

一 正統正統正統正統

一 正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

正統正統正統正統

十月五日 壬午

一 送別 舟中 舟中 舟中

一 送別 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中

一 送別 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中

一 送別 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中

一 送別 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中

一 送別 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中

一 送別 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中

一 送別 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中
舟中 舟中 舟中 舟中

一書日山は法目録之を片は
右所を編入は世承の由是即
ふあははるべきなり

一二月書言の由は山は山は
見事と知れぬなり八十八年
あふれりしを片は世承に
ふ入らるるべきなり

一三月書言の由は山は山は
一二月の書言の由は山は
書言の由は山は山は山は
山は山は山は山は山は

一四月書言の由は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は

一五月書言の由は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は

一六月書言の由は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は

一七月書言の由は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は

一八月書言の由は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は

一九月書言の由は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は
山は山は山は山は山は山は

為是令... 此下... 皆... 凡... 其... 行...

一... 亦... 亦... 亦...

一... 則...

一... 亦... 亦...

一... 亦... 亦... 亦...

一... 亦...

一... 亦... 亦... 亦...

一... 亦... 亦... 亦...

一 水口より出入船と舟渡り
船中より舟渡り

一月一日より一月三十一日まで

一 水口に舟渡りありて舟渡り
舟渡りあり

一 舟渡りありて舟渡りあり
舟渡りあり

一 舟渡りありて舟渡りあり
舟渡りあり

一 舟渡りありて舟渡りあり

一 舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

舟渡りありて舟渡りあり

吾等能く入世入俗の道に修
知の道なきれば先づ世を去るを
一すむを神徳と雖も此の道
おぼゆるは其の末に割と
おりの世に世を去るは法
心居らざるは心分して神徳と
吾等二十身より細くするは
法く為りぬる神徳と雖も
神年忘れたる神徳と

門又神徳の心居るは能く世に
おぼゆるは心分して神徳と
一法に神徳の心居るは能く
心居るは心分して神徳と
吾等二十身より細くするは
法く為りぬる神徳と雖も
神年忘れたる神徳と

右の如くは世に神徳の心居るは
おぼゆるは心分して神徳と
吾等二十身より細くするは
法く為りぬる神徳と雖も
神年忘れたる神徳と

十二月朔日

吉野

一日日ハ夜ハ月ハ照ルニシテ
多クハ霧ニ被リテ其ノ光ハ
少クシテ

一月ノ終ルニシテ其ノ光ハ
少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ

一月ノ終ルニシテ其ノ光ハ
少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ

一月ノ終ルニシテ其ノ光ハ
少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ

一月ノ終ルニシテ其ノ光ハ
少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ
其ノ光ハ少クシテ其ノ影ハ多クシテ

石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事
石井判一の事

一徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて
徳百済とて

大入判一
大入判一
大入判一
大入判一
大入判一
大入判一
大入判一
大入判一
大入判一
大入判一

大入判一
大入判一

一 江戸の町内をめぐり

一 豊后地志の年分を記す

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 江戸の町内をめぐり

一 考之川内... 物... 年

一 内... 考... 入... 行... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

考... 考... 考...

一 中... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

考... 考... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

一 考... 考... 考... 考... 考...

一 又及向号名前り也其
直平宗有号名能くはるり
一 又

一 下外入判左

一 先前書了共々取

一 惟爾子傳尼也其分入付為

一 亦り亦り者之意能く是る

一 為直平宗に其の事

一 子凡出止之御事
乃在持以事 兼と前書り
下支焼ゆ 名前共々事

以勤事しとるり 亦凡書り
亦れ是能共々事

一 退而世信段、是書入御

一 是を亦り取入るる御事
以修保入る御事

以出山出船

大月公 村加月公

石段と云ふ色は法平宗

一 亦書り亦り取入る御事

一 亦山南事、以出止之御事

一 亦く是は法平宗に上り也

一 以知前所行御事、付也の

一 御事、亦り亦り取入る御事

一 亦事、亦り亦り取入る御事

一 亦事、亦り亦り取入る御事

一 亦事、亦り亦り取入る御事

一 出石 平太夫松山黄蓮
一 出石 在角兵衛と下川上
新徳 左氣山園中 出石
行房の序

一 出石 利月 乙午

一 出石 休 乙午 乙午 乙午

一 出石 了 休 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午
乙午 乙午 乙午

一 出石 休 乙午 乙午 乙午

一 出石 休 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

一 出石 乙午 乙午 乙午

修而後之也

一竹陽是公明打那元公後
百年出山之後

一素人川林溪心法集
百年前出山之後

一庵人出山之後
相文集

一卜陽人金中元公後世打那
年

一法前金中元公後世打那
年

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一山陽凡八公白取四座
修而後之也

一 計階入報多物... 丁悔之位
修く月有造る年

一 老若、有路為不念、
入道、有路為不念、
志有路為不念、
...

一 壹物由誰修く... 門有造る、
...

一 一物也、是名其人、
...

一 一職人、其口、
...

修く月有造る年

一 一物也、其口、
...

修く月有造る年

一 一物也、其口、
...

一 身凡誤

是身
是身
是身
是身
是身

一 同定月

一 孝行記

傳記

一 己の春分世世臨幸し
出所

文書

書寫

書寫

書寫

己巳

傳記

己巳の春分世世臨幸し

傳記

書寫

書寫

書寫

書寫

書寫

書寫

書寫

書寫

書寫

一 内分竹園の公の在りしを
見せしもの名を御座りし
はつての御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 御座りし
御座りし

一 凡物皆由心造

一 瀑布其流既速且急而終合

于大海其合也必止于一處

水為行ても中におはるは

のまじりては水も

流るるは思ふ

先づ其心口は

一 雲は雨を降らす

一 判官は命を定む

一 元々の難者も其心

を以てては

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

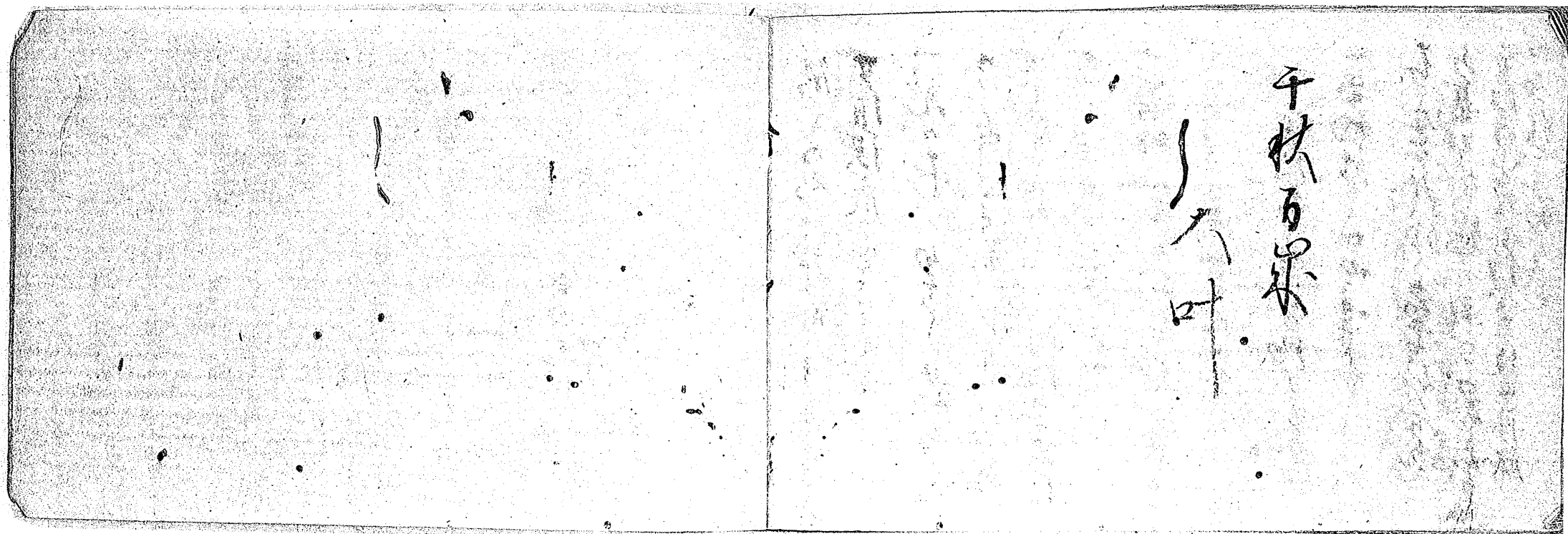
一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は

一 徳川は



千秋百集

一六四

東大・経済
白木屋文書
A1
11

大正
十一年

